

提灯まち
9月1日

9月1日・2日

鹿島神宮 ☎0299-82-1209
<https://kashimajingu.jp/>



【交通アクセス】
東京方面 ●車＝東関東自動車道潮来I.C.から車で10分
●バス＝東京駅八重洲南口から高速バスで120分
埼玉・栃木方面 ●車＝圏央道大栗JCTから東関東道潮来I.C.
51号経由で30分 ●車＝北関東自動車道水戸大洗I.C.
国道51号経由で50分

鹿嶋の祭見どころ情報

1月1日

時 間	場 所	内 容
10:00～	各町内	乱曳き
15:00頃	神宮前大町通り	山車整列(5台)
16:00～	神宮前大町通り	大提灯奉納(15基)
17:00頃	鹿島神宮第一駐車場	山車集合(5台)
18:00～	〃	総踊り及びのの字廻し等
19:00頃	各町内	乱曳き



「[の字廻し]とは、重さ3~4トン、高さ7メートルにも及ぶ山車を向って左前の車輪を軸として、筆で「[の]」の字を書くように回転させるもので迫力満点です。山車上部の大人形があたかも能を舞う如く、ゆっくり回転させることが、上手とされています。

●総踊り 9月1日 18:00～

総踊り及びの字廻し会場

店



鹿島神宮第一駐車場

●役曳き山車集合
9月2日 13:00～

山車の乱曳きに対し山車(5台)が整列して曳き廻されることを「役曳き」といいます。



●還幸祭
9月2日 15:00～
行宮出御の御神輿が
本宮へ還る祭典で、
神幸祭を反す姿で奉
仕されます。町内を
巡幸して本宮へ還御
します。

● 鹿島神宮
● 神幸祭
9月1日 20:00～

勢神社
写真館
イシヤ

御神輿が與丁奉仕者により捧持されて町内へ出御します。



乙 神幸山車祭案内図

←← 役曳き
山車順路
9/2 13:30~17:00

大提灯
奉納コース
9/1

鹿嶋の山車紹介

〈山車祭日時〉 九月一日・二日 午前十時

鹿島神宮神幸祭奉祝のため、五台の山車が曳き廻されます。その歴史は、安政四年（一八五七年）に大町、元治元年（一八六四年）に角内町の山車が作られたことに始まります。その他の山車がいつ作られたかは不明ではありますが、文久三年（一八六三年）に仲町、慶應二年（一八六六年）に神野、明治四年（一八七一年）に櫻町、明治六年（一八七三年）に新町の山車が曳き出された記録が残されています。山車の曳き廻しには囃り物（お囃子）が必要で、その囃り物を奏でいる組織を下座連と呼び、町内とは異なる組織です。下座連は元々農村集落ごとに存在しており、かつて木境地区にも下座連が存在していました。その集落ごとに行っていた里神楽・おびしやなどと融合して現在のお囃子となりました。

①山車製作年 ②製作者氏名 ③人形製作年
④人形製作者 ⑤芸座名地名 ⑥額の文字
⑦揮毫者

櫻町区山車

〈年番〉



このはな さく や ひめ
水花咲耶姫

- ①新造平成26年 ②田中正男(千葉県香取市)
- ③平成26年 ④(株)京都科学(京都府)
- ⑤源囃子連中(潮来市)
- ⑥神随(かんながら)
- ⑦鹿島神宮名誉宮司 上野貞文

新町区山車



しょう とく たい し
聖徳太子

- ①新造平成4年 ②田中春男(千葉県香取市)
- ③平成4年 ④古屋敷吉男(佐倉市)
- ⑤祭好会鹿嶋芸座連(鹿嶋市)
- ⑥和(わ)
- ⑦鹿島神宮元宮司 東 實

大町区山車



つか はら ぼく でん
塚原ト伝

- ①昭和5年 ②川辺留吉(町内建築業者)
- ③平成18年 ④川崎人形店 川崎勝久(さいたま市岩槻区)
- ⑤牧野下座連(香取市佐原)
- ⑥和楽(わらく)
- ⑦漢詩人 織田鐵三郎

仲町区山車



あまてらすすめらおお かみ
天照皇大神

- ①新造平成5年 ②青柳義行(町内建築業者)
- ③平成14年 ④人形師五代目綱季(熊谷市)
- ⑤潮風會囃子連(潮来市)
- ⑥神徳(しんとく)
- ⑦鹿島神宮元総代 椎木有道

角内区山車



たけ みか づちのおおかみ
武甕槌大神

- ①新造平成元年 ②篠塚良雄(潮来市建築業者)
- ③平成元年 ④田島義朗(千葉県八千代市)
- ⑤上町芸座連(潮来市)
- ⑥敬神(けいしん)
- ⑦鹿島神宮元宮司 東 實

神幸祭

〈九月一日午後八時〉



九月の一日・二日は鹿島神宮のおまつりで、地元の中地区を中心に「神幸」という名称で親しまれています。神幸祭とは九月一日の夜八時に神様がおでましになることをい、午後八時半過ぎには御神輿が興丁奉仕者により捧持されて町内へ出御となります。二日は楼門前の行宮で午前十時より行宮祭が、午後三時から行幸祭が行われます。一日・二日には山車祭りが、一日夕刻には提灯まちが奉納されます。

〈興丁奉仕：平井区〉

還幸祭

〈九月二日午後三時〉



行宮出御の御神輿が本宮へ還る祭典で、神幸祭を反す姿で奉仕されます。町内を巡幸して拝殿へ還御します。表参道には山車五台が並べられ各町内役員以下全員が整列し、芸座は段物を演奏奉納して御神輿を奉送迎します。供奉員は、陣笠・陣羽織等の供奉の服装で、警護役の鹿島新當流・総大行事等は流服・隊服着用、参列者も大紋、その他指定の服装にて参列をします。

〈興丁奉仕：小宮作区〉

提灯まち

〈九月一日午後四時〉



大きな青竹に無数の小提灯を結んで縄を四方に引き一本の竹をおよそ二十人ほどで推し立てながら祭頭囃も高らかに神宮へ一歩一歩進みこれを鉦場の簀にして奉焼します。現在この行事を「提灯まち」といいます。以前は神幸祭としての御軍祭に鉦場で簀を焚く祭礼行事がありました。そこへやがて提灯の市が立ちこれを購入い入れて奉納奉焼する行事が起こったのではないかと思います。元来「まち」とは特定の日に人々が参集して忌み籠り夜を明かすことを言いますので、鹿島の神が御神幸される夜を迎えて提灯を点して忌み籠るという意味合いがあるわけです。江戸後期の文献をみますと、神職達が大小の神剣を抜き氏子も男は太刀、女は長刀などを火にかざす神事が一方にあつて、そこへ明かりを灯した提灯をたくさんつけた青竹の奉納神事が行われていました。

- 大 提 灯 奉 納 数 ▶15基
- 大 提 灯 奉 納 時 間 ▶9/1 16:00から20:30
- こども提灯奉納時間 ▶9/1 14:00から16:00
- 大 提 灯 奉 納 コース ▶鹿島神宮第二駐車場～鹿島神宮境内まで
- 先頭大船津赤ちょうちん奉納出発時間 ▶16:30

鹿島神宮めぐり

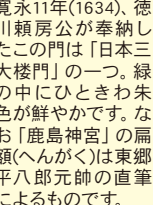
① 大鳥居

東日本大震災で倒壊した大鳥居に変わり、平成26年6月に竣工しました。神宮の森で数百年育まれた天然杉四本が使用され、その素朴で雄大な姿は震災復興のシンボルとして親しまれています。



② 楼門

寛永11年(1634)、徳川頼房公が奉納したこの門は「日本三大楼門」の一つ。緑の中にひときわ朱色が鮮やかです。なお「鹿島神宮」の扁額(へんがく)は東郷平八郎元帥の直筆によるものです。



③ 本殿

社殿は元和5年(1619)徳川秀忠公より奉納されたもので、桃山期の極彩色が華やか。本殿・幣殿・拝殿・石の間のいずれもが国の重要文化財の指定を受けています。社殿の背後にある杉の巨木は根廻り12m樹齢1,300年と推定されるご神木です。



④ 鹿園

園内に遊ぶ鹿たちは、「神のお使い」。現在の鹿は、鹿島から移された春日大社(奈良)の鹿の子孫を再び受け継いだものです。「アントラー」とは鹿の枝角のこと。Jリーグ「鹿島アントラーズ」の名もここに由来しています。



⑤ 奥宮

慶長10年(1605)、徳川家康が関ヶ原の戦勝のお礼に本殿として奉納されました。二代将軍、徳川秀忠による社殿造営の際に現在の処に引き遷したもので、重要文化財に指定されています。



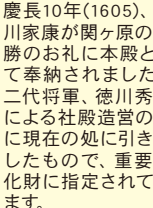
⑥ 要石

地震を起こす大なまずの頭を押さえているといわれる霊石です。いくら掘っても全容は掘り尽くせないといわれ、「鹿島の七不思議」の一つにも数えられています。



⑦ 御手洗池

この池は、古くから神職のみそぎの場で、大人が入っても子供が入っても水面が胸の高さを越えないといわれ、「鹿島の七不思議」の一つとなっています。公園も整備され、市民の憩いの場になっています。



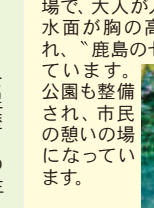
⑩ 根本寺



聖徳太子の開基と伝えられる寺で、仏頂和尚の禅の師と仰ぐ俳聖・松尾芭蕉も貞享4年(1687)にここへ月見に訪れています。その様子は「鹿島紀行」にも記されており、境内には「月はやし梢は雨を持ちながら」などの句碑も建てられています。

⑪ 鎌足神社

天智天皇に仕え、645年大化の改新を断行した藤原鎌足を祭る神社です。歴史書「大鏡」には、鎌足は鹿島神宮の鎮座する地から出生したとあります。



鹿島神宮 周辺 まちあるきマップ



七福神めぐり

にこやかな表情の七福神の石像が通りに並んでいます。中には握手を求めるように右手を差し出しているものも。縁起のいい神様たちにごあいさつして回ると、福を招きます。

- ①布袋 ②福祿寿 ③寿老人 ④弁才天
- ⑤大黒天 ⑥毘沙門天 ⑦恵比寿

鹿島歴史めぐり

⑧ 塚原ト伝の像

宮本武蔵との「なべふた試合」の話で知られる塚原ト伝(1489～1571)は、鹿島新当流の開祖。その偉大な功績を記した碑と銅像が剣聖塚原ト伝誕生五百年を記念して建立されています。

⑨ 鹿島城山公園

鹿島神宮駅から徒歩5分の距離にあるこの公園は、市民の憩いの場。北浦を望む場所には鹿島城跡の碑も建てられています。

